

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691500023		
法人名	医療法人 十全会		
事業所名	グループホームさざんかの宿		
所在地	徳島県板野郡板野町犬伏字鶴畑42番地		
自己評価作成日	平成27年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりのスペースに応じたサービスを提供し、ストレスの少ないのびのびとした穏やかな生活のなかで認知症の行動障害を軽減できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体法人の敷地内に位置しており、多目的ホールや他サービス事業所と併設している。利用者と地域住民の交流が頻繁にある。法人のサービスの質の向上や職員の資質向上に関する各種委員会に、事業所の職員も積極的に参加している。職員は、利用者がこれまでまでの暮らしを継続しつつ、穏やかに生活を送ることができるよう支援している。医療機関との24時間の連携体制を整備しており、利用者や家族等の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように ○ 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員間で理念について話し合い、地域密着型サービスの目的を盛り込んでいる。運営上の方針や目標を具体化し、理念を共有して実践している。	毎朝、全職員で理念を唱和している。職員間で、地域密着型サービスの意義を共有するなどして、ケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の祭り際には御輿の来訪もある。また、地元の中学生の体験学習を受け入れ交流に努めている。地域の民生委員さんとも話し合いの機会をとっている。	事業所では、法人の行事に地域住民を招待したり、中学生の体験学習を受け入れたりと、積極的に交流を行っている。また、利用者が町の敬老会や選挙に行くことができるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践内容を踏まえて、地域の高齢者の暮らしに役立つことはないかを話し合っている。また、人材育成への貢献として、積極的に実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催する事で、良い意見等あれば日々の生活の中に取り入れて行けるようにしています。	年6回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域住民の代表者、町担当者等の出席を得ている。利用者の状況や行事について報告している。全職員で議事録を回覧するなどして、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者様・民生委員様・地域包括支援センター様とは日頃より関係を作れるように努力しています。	職員は、町担当窓口に出向き、取り組みの報告や書類提出を行い、相談や助言を得ている。事業所の各種会議に町担当職員の出席があり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	町の指導に沿い身体抑制は全面行っていません。施設内研修を行い、拘束を行う事でどのような影響があるのか等の理解を深めています	事業所では、職員が身体拘束の弊害について理解することができるよう研修の機会を設けている。週1回、職員間で具体的な事例を基に勉強会を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、虐待とは暴力的な行為だけでなく、暴言や無視、心理的虐待、必要なケアの放棄等が含まれること、人としての理解を話せる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、勉強会を開いて理解を深められるようにしている。また、成年後見制度に関する研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問時に疑問や不安な点を聞き納得して頂けるよう意識している。契約時における重要事項説明書、契約書の説明を行い、納得した上でサービスの提供が始められるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加してもらい、ご家族からの意見を取り入れたり、密に連絡を取り合い(報告、相談)少しでも把握できるようにしている。	運営推進会議などの機会に、利用者や家族の意向や意見を聞くようにしている。家族の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見は職員間で話し合っ て運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見を聞く機会を設け、意見を出しやすい工夫を行っている。日ごろから、コミュニケーションを図るように心がけている。	日頃から、管理者と職員間でコミュニケーションを図っている。管理者は職員の意見や提案に耳を傾け、出された意見等を運営面に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況等を把握し、向上心を持って働けるよう取り組んでいる。勤務の希望も出来るだけかなえられる様に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるように努めている。また、研修報告を全職員に行い、周知を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、他のグループホームや事業所との交流、交換研修等を通じて相互研鑽や学習に努めており、サービスの質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話に耳を傾け、又、状態を把握して、本人が安心して生活出来るような支援に努める。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いの中で、御家族の思いや困っている事など、要望に添える様な関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の思い・状況を確認している。支援内容の提案や相談を繰り返す中で信頼関係を構築し、必要なサービスに繋がられるように取り組んでいる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いせず、利用者様の出来る範囲内で「洗濯物をたたむ・掃除・配食等」を手伝ってもらえるようにお願いしています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄りそって、日ごろの暮らしの出来事や気づきの情報共有に努めている。本人をともに支えるため、家族と同一様な思いで支援していることを伝えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所での生活が、今までの生活の延長線上にあるように、地域の馴染みの知人や友人等が来訪してくれたり、電話を受けるなど、継続的な交流ができるよう働きかけている。	事業所では、友人や知人等の来訪を受け入れている。利用者が馴染みの理・美容院や買い物に出かけることができるよう支援している。家族等の協力を得て、馴染みの人や場所の関係が途切れることのないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員が、利用者同士の関係を把握し共有できるように努めている。また、利用者同士の助け合いや、気持ちの支え合いができるよう配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性を損なうことがないように、今までの生活環境や支援内容、注意が必要な点等について情報提供を行い、きめ細やかな連携を心がけている。			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情等から真意を推し測ったり、さりげなく確認している。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得ようとしている。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、希望や意向を把握するよう努めている。意思の表出が困難な方には、表情の変化や些細な行動等から意向をくみ取ったり、家族や関係者から情報を得たりして、その人らしい暮らしの実現に向けた支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、考え方に関する情報を、本人や家族、知人等から教えてもらい、全体像の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、利用者一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の理解に努めている。十分に話を聞いてわかりやすく説明するなど、安心して過ごせるような支援に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族、関係者等と話し合っ、利用者様本意を中心に全職員の気づきや意見を取り入れて作成している。	利用者や家族の意向を尊重し介護計画を作成している。月1回、関係者間で話し合っモニタリングを行い、3か月に1回、見直しを行っている。なお、利用者の心身状況に変化が見受けられた際には、随時、見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化等は、利用者一人ひとりのケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、個別記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況・要望等に応じて、必要なサービスを臨機応変に提供している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域包括支援センターの職員等と、地域や支援に関する情報を交換したり、協力関係を築いたりしている。御輿のボランティアや学校の職業体験学習等を受け入れている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療を受けられるように支援している。また、状況に応じて本人や家族が希望する医師による医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門科の受診時には、職員が同行することもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう早期発見に努めている。体調の変化等が見受けられた際には、直ちに看護職へ報告し、適切な医療に繋げている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して医療を受診できるように家族等と相談している。医療機関の関係者に対し、情報の提供やケアについて話し合い、早期退院に向けた働きかけを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえたうえで、医師と職員が連携を図っている。安心して納得した終末期を迎えられるように、随時、意向を確認して取り組んでいる。	契約時に、重度化した場合や終末期に関する事業所の方針等を説明している。利用者の心身状況の変化に応じて本人や家族の意向を再確認し、医療機関等と連携を図るなどしてチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我や骨折、誤嚥、意識不明等の対処方法や緊急時の対応に関するマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。年4回、避難訓練を行っている。また、消防署職員の立会いのもと指導を受け、防火や防災訓練等を行っている。また、緊急時通報システムを設置している。	年4回、消防署や関係者の協力を得て、避難訓練を行っている。災害時の避難袋や食料品の備蓄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。また、自己決定しやすい言葉かけに努めている。	管理者や職員は、利用者の尊厳やプライバシーを傷つけることのないよう、日頃の支援に努めている。言葉かけなどにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、利用者とは過ごす時間を通して、本人の希望や関心、嗜好の把握に努めている。日ごろの生活の中で、本人が選びやすい場面づくりに配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに応じた対応を心がけている。毎日の体調や様子を見て、希望を聞いたり相談を行って過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れや汚れ等には、プライドに留意してさりげなく支援している。美容院は定期的に井上病院に訪問されてい。馴染みの美容院がある利用者様は美容院へ家族・職員が送迎し利用されている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や厚付けに関する話をしたり、配膳や食卓の清掃等お手伝いを無理強いせず、お願いしています。利用者様の状況に合わせて、きざみ食・ミキサー食を提供しています。	事業所でご飯を炊いたり、味噌汁を作ったりしている。利用者一人ひとりの希望する温度等を聞いている。利用者と職員で外食を楽しむこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水予防の為、目盛りのあるコップを使用し、1日の飲水量をチェックしています。一日水分量1500mlが確保出来るように支援しています。栄養状態に問題がある場合は栄養補助を検討しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけや見守りを行い、困難な方には毎食後のケアを行うなど、利用者一人ひとりの力に応じた口腔ケアの実施に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は利用者全員、トイレでの排泄を支援している。利用者一人ひとりの状態に合わせて、紙パンツやおむつ類の使用を検討している。	日中は、利用者全員がトレーニングパンツを活用している。職員はトイレへの誘導を行うなどして、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、十分な水分補給に努めたり、繊維質の多い食材の提供を心がけている。日中、トイレ誘導時には便座に座ってもらい便秘予防に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方には、言葉かけや対応を工夫したり、チームで支援するなど、利用者一人ひとりに応じた入浴の支援に努めている。	事業所では、少なくとも週2回は入浴することができるよう支援している。入浴の順番等の希望を確認し、ゆっくりと入浴を楽しむことができるよう配慮している。入浴を拒む方にも、本人が納得して入浴することができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けない時には、温かい飲み物やおやつを提供しておしゃべりするなどの配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	心身状態に変化があった際には、医師に情報を伝えている。また、必要に応じて処方内容の見直しが行えるよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが、得意分野で力を発揮できるようにお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	初詣やみかん狩り等、利用者一人ひとりの習慣や楽しみごとに応じて戸外に出かけられるよう支援している。歩行が困難な方には、車や車椅子等を利用して戸外へ出かけられるよう支援している。	利用者一人ひとりの希望により、買い物や散歩に出かけている。季節の行事やみかん狩りに出かけている。家族の協力を得るなどして、一時帰宅や外泊の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が安心や満足を得られるよう支援している。家族と相談し、小額でも所持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員は、如何なる場合も通信及び面会に行動制限が出来ない旨を理解し、利用者の希望に応じて、日ごろから電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、居心地よく過ごせるように配慮している。また、自宅の延長として、自分の力でその人らしく過ごせる居心地のよい空間となるよう配慮している。	リビングには、季節の花を生けたり、利用者が作成した雛人形を飾ったりしている。共有空間には、空気清浄機や加湿器を設置し、一人ひとりが居心地良く過ごすことができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごして頂けるように、一人になったり、気の合う利用者同士が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談したうえで、居室に寝具やタンス、写真等を持ち込んでもらい、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	事業所では、利用者に馴染みの家具や家族の写真、縫いぐるみなどを持ち込んでもらっている。本人や家族と相談するなどして、転倒リスクのある方には、床にコルクマットを敷きつめたり、布団を敷いたりして、安全に過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの力を見極め、目印や物の配置に配慮している。トイレの掲示や自室の名前の掲示など		